

和泉農園

※2016年3月現在

代表者名	和泉 陣	資本金	—
創業年	明治初期頃	売上高	36百万円（2014年12月期）
事業内容	生産（ブドウ、白ネギ）	経営規模	畑3ha、樹園地1.8ha
従事者数	5人（うち女性2人。女性内訳：役員1人、一般職1人）		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んでいる制度] 短時間勤務制度、育児・介護休業中の能力向上 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係（休憩室の設置）		



経営概況

和泉農園は、大分県豊後高田市の明治初期から続く家族経営の農家である。現在は、代表夫妻とその父母の2世代夫婦が、干拓地砂質土壌の畑3haと樹園地1.8haで白ネギとハウスブドウを中心とした複合経営を行っている。

和泉農園の経営を大きく特徴づけているのが「家族経営協定」である。和泉農園の家族経営協定は「①現状維持は衰退につながる。緩やかな規模拡大。②常にプロ意識を持って農業生産に関わる。③経営状況を記帳・把握・分析して、自由な発言の場をもつ」という経営方針を掲げ、明確な経営の役割分担、労働時間や休日の確保、家事時間を労働時間と認めること、等が明記され、家族全員が快適に楽しく経営できる体制を整備している。

また代表の母は、ヨーロッパ研修に参加した



際、女性たちが農家民宿を生き生きと実践している姿を見て、農家民宿経営の夢を持つようになった。帰国後、農村魚村女性・生活活動支援協会の専門家養成講座「グリーン・ツーリズム」や「農業労働管理」の講座を受講し、農家民泊について勉強した後、2006年、農家民宿「明朗屋」を開始した。

現在、和泉農園の従事者数は5名で、うち女性は2名である。

1. 経営者の意識

現代表の母・和泉やす子氏は、1970年、和泉宮之氏（前代表・現代表の父）との結婚と同時に就農した。やす子氏は非農家出身だったが、もともと農業が好きだったこともあり、高校卒業後、大分県立農業実践大学校に進んだ。結婚後、地域の若妻会、女性農業経営士会、生活研究グループなどの女性組織の一員となり、各種研修にも積極的に参加。農業経営と農業生活の知識や技術の習得に励んだ。その知識を生かすべく、和泉農園の経営にも共同経営者として積極的に参画することで、やす子氏の意見やアイデアが経営に生かされるようになっていった。

やす子氏は就農直後から、現状の経営診断を基に、3人の子供たちや将来をふまえた営農生活設計書を作成し、家族内での話し合いのもと、その時々状況に臨機応変に対応しつつ戦略的な経営展開に取り組んできた。たとえば、子供たちの進学時にはカスミノウの栽培を経営に加え所得の向上を図るなど、新規品目の導入や規模拡大を適期に実施した。

1990年からは労働時間の記帳を開始した。その実態把握と分析に基づき、繁忙期には地元女性をフレックスタイムで雇用し、効率的な作業と収益確保を実現した。

和泉農園の経営に重要な役割を果たしている「家族経営協定」は、1996年に女性が働きやすい環境の実現を目指し、夫婦間で締結した。その結果、やす子氏の家事時間や余暇が確保され、役割や位置づけが明確になる一方、やす子氏自身も共同経営者としての自覚が強まった。さらに家族経営協定の締結と同時に、女性農業者年金にも加入した。

1998年に現代表の陣氏（次男）が就農すると、2000年に宮之氏、やす子氏と陣氏が家族経営協定を締結。さらに2004年の陣氏の結婚を機に、2005年には宮之氏・やす子氏夫婦と陣氏夫婦とで家族経営協定を締結した。

そして当時の代表の宮之氏が65歳になった時、家族経営協定書の規定通り経営移譲がなされた。その結果、経営者となった陣氏の責任意識は増し、他品種栽培へのチャレンジ、生産工程の見直し等による省力化、直売の開始等による販路拡大などに取り組み、所得も向上した。

今後は代表の妻の朋子氏が夢とやりがいを持てる環境を作り上げ、その能力を存分に発揮できるような支援体制を整えていく。

2. 子育て・出産に関わる制度及び研修制度

朋子氏は、現在子育て中であるが、育児・介護

休業中の能力向上のため、経営に関する各種研修会に参加している。また、短時間勤務制度も導入している。

3. 女性が働きやすい環境の整備と、地域貢献

女性が働きやすい施設設備の整備としては、休憩室の設置を行っている。

その他、地域女性への貢献として、やす子氏の多方面にわたる精力的な活動がある。やす子氏は、2011年から玉津まちの駅直売所「夢むすび」の管理責任者を務め、地元野菜や加工品の販売とレストランを通じて地産地消を実践し、地元の雇用拡大に寄与している。2013年には大分県生活研究グループ連絡講義会会長として県内農村女性の力を結集して全国大会を開催し、大分県女性のパワーを全国に発信した。また、地元女性集団会長として地域おこしを推進し、女性の生きがいづくりに取り組んでいる。

大分県農業指導士の任期中には、農業委員の女性登用について関係機関に積極的に働きかけ、大分県で初めて農業委員会に女性が登用された。やす子氏自身も農業委員として活躍している。

審査委員の声

個人経営でありながら、早くから経営者夫婦で家族経営協定を結び、仕事上の役割を明確にしたり労働時間や休日を決めたりと、企業的な経営体を目指してきた。このことが、現経営者である息子夫婦を後継者とすることができた大きな要因の一つだろう。他の経営体にも大いに参考になるのではないだろうか。

経営者の母は地域の女性のリーダーとして直売所の運営などにも関わっており、今後のさらなる活躍に期待したい。